



## 2025 年度 研究医養成コース 活動報告書

### 1. 2025 年度活動概要

2025 年度においては、入門研究医コースに 18 名、登録研究医コースに 14 名の学生が新たに参加することとなり、コース参加学生は総勢 168 名となった。これは医学科全学生の約 2 割を占める数値であり、研究医養成コースはその事業規模を順調に拡大させている。さらに、2021 年度に整備した各種セミナーの継続開催や修了認定制度の運用など、新たな取り組みを引き続き実施し、事業の質を保持している。また、2025 年度の特筆すべき活動については以下のとおりである。

#### ●滋賀医科大学・ジャクソン研究所の国際連携を見据えた学部学生研究留学プログラムへの参画

ジャクソン研究所で研究経験のある本学研究医養成コース 2021 年度修了学生の仲介により、将来の本学とジャクソン研究所の国際提携を見据えて、まずは 2 年間のトライアルとして学部学生の研究留学が企画された。2025 年度には、2 名の当コース所属学生が選出され、2025 年 8・9 月の 2 か月にわたって研究留学を行った。当該学生は、帰国後に学内でその留学・研究経験についての報告会を複数回行い、在学生におけるリサーチマインドの涵養にも貢献した。

#### Jackson Laboratory (ジャクソン研究所)

1929 年にアメリカ合衆国メイン州バーハーバーで設立され、「病気に対して正確な遺伝学的ソリューションを見出し、人の健康を改善するという共通の探求において、世界の生物医学コミュニティに力を与えること」を使命として、基礎研究、教育、サービス (14,000 系統以上のマウス提供) において活発に活動を行っている。(HP から引用)

### 2. 在籍学生 (2026.3.31 現在)

#### (1) 学年別一覧

	入門研究医		登録研究医	
		うち新規登録		うち新規登録
第 1 学年	13	13	1	1
第 2 学年	21	5	11	6
第 3 学年	17	0	13	7
第 4 学年	18	0	14	0
第 5 学年	13	0	14	0
第 6 学年	20	0	13	0
合 計	102	18	66	14

(2) 講座別一覧

	入門研究医		登録研究医	
		うち新規		うち新規
解剖学講座 (生体機能形態学)	4	1	1	1
解剖学講座 (神経形態学)	6	1	7	1
生理学講座 (統合臓器生理学)	4	0	10	0
生理学講座 (生体システム生理学部門)	1	0	2	2
生化学・分子生物学講座 (分子生理化学)	9	1	0	0
生化学・分子生物学講座 (分子病態生化学)	1	0	3	2
生化学・分子生物学講座 (再生修復医学)	4	0	0	0
病理学講座 (人体病理学)	11	5	7	2
病理学講座 (疾患制御病態学)	8	1	6	3
病理学講座 (微生物感染症学)	2	1	0	0
薬理学講座	7	1	0	0
NCD疫学研究センター予防医学部門	4	1	6	1
社会医学講座 (衛生学)	4	0	4	2
社会医学講座 (法医学)	15	3	6	0
生命科学講座 (生物学)	8	1	8	0
生命科学講座 (物理学)	2	1	2	0
生命科学講座 (化学)	1	0	1	0
神経難病研究センター (神経診断治療学)	4	0	1	0
神経難病研究センター (分子神経病理学)	3	1	0	0
神経難病研究センター (国際共同研究)	0	0	0	0
動物生命科学センター	1	0	0	0
実験実習支援センター	1	0	2	0
不明・検討中	2	0		
合計	102	18	66	14

(参考：在籍学生推移)

年度	2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録	入門	登録
学生数	18	—	18	8	23	17	31	31	48	35	58	46	75	43	85	38	75	45	90	55	98	62	106	62	107	63
合計	18		26		40		62		83		104		118		123		120		145		160		168		170	

### 3. 学修・研究支援状況

#### (1) 研究医養成コースセミナー

実験結果について論理的に考察し、プレゼンテーションする能力を身につけ、また研究医養成コースに在籍する他の学生との交流を図るため、研究医養成コース学生全員を対象として2回のコースセミナーを開催した。

##### 【第1回目】

- 日 時：2025年6月26日（木）16：20～17：50（90分）
- 場 所：第1講義室（一般教養棟2階）
- 参加者：24名（うち、演者2名、教職員6名）
- 次 第：1. 委員長挨拶・趣旨説明等（5分）  
2. 演者進捗報告（50分）－報告10-15分、意見交換・フィードバック等含む  
3. 参加者の興味関心、研究の進捗の意見交換等

##### 【第2回目】

- 日 時：2025年12月11日（木）16：20～17：50（90分）
- 場 所：臨床講義室2（臨床講義棟1階）
- 参加者：20名（うち、演者3名、教職員5名）
- 次 第：1. 委員長挨拶・趣旨説明等（5分）  
2. 演者進捗報告（75分）－報告10-15分、意見交換・フィードバック等含む  
3. 適宜事務連絡等



## (2) 技術セミナー

医学研究で用いられる基本的研究手技の基礎を身につけるため、入門研究医を対象とした少人数制の技術セミナーを3シリーズ（複数日実施）開催した。

### 【第1回目】

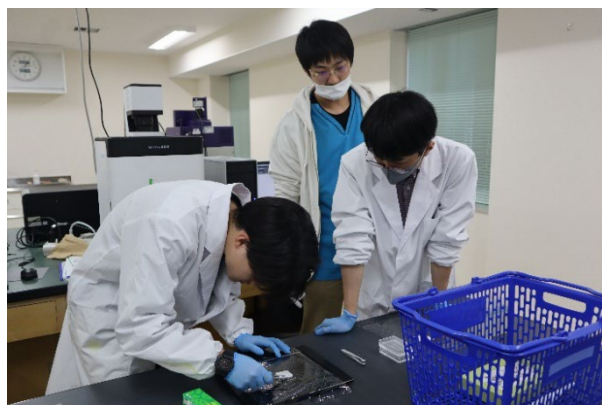
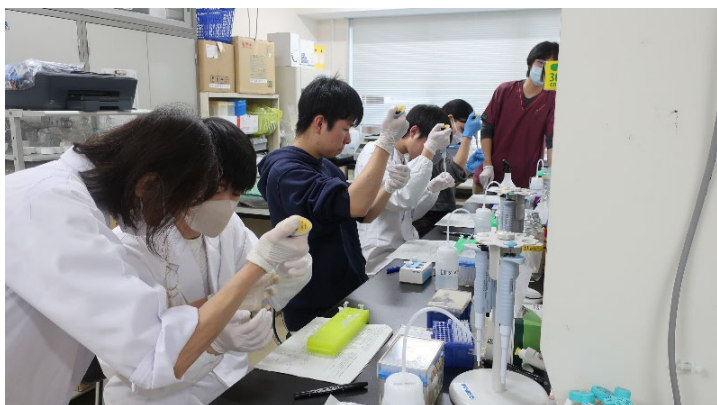
- 日 時：2025年4/14、4/18、4/23、4/25、5/7、5/14（延べ30時間）
- 場 所：病理学講座（人体病理学部門）実験室（総合研究棟4階）
- 参加学生：16名（上記日時に分かれて1名につき1日間実施）
- テ ー マ：基本的な実験機器の使用方法

### 【第2回目】

- 日 時：2025年8/13、8/15、8/19、8/25、8/27、8/29（延べ112時間）
- 場 所：病理学講座（人体病理学部門）実験室（総合研究棟4階）
- 参加学生：7名（2～3名ずつ上記日程に分かれて1名につき2日間実施）
- テ ー マ：実験の基礎《分子生物学実験の基礎》

### 【第3回目】

- 日 時：2026年2/18、2/19、3/9、3/10、3/11、3/12（延べ46時間45分）
- 場 所：病理学講座（人体病理学部門）実験室（総合研究棟4階）
- 参加学生：4名（1-2名ずつ上記日程に分かれて1名につき2日間実施）
- テ ー マ：実験の基礎《タンパク編》



### (3) 輪読会

研究論文の検索・講読能力を身につけるため、研究医養成コース学生全員だけでなく、医学科全学生を対象としてゼミ形式での輪読会を年間4回開催した。

#### 【第1回目】

- 日 時：2025年4月24日（木）16：20～17：50（90分）
- 場 所：第1講義室（一般教養棟2階）
- 参加者：12名（うち、演者2名、コース学生11名）

#### 【第2回目】

- 日 時：2025年6月12日（木）16：20～17：50（90分）
- 場 所：第1講義室（一般教養棟2階）
- 参加者：24名（うち、演者2名、コース学生21名）

#### 【第3回目】

- 日 時：2025年10月17日（金）16：20～17：50（90分）
- 場 所：第1講義室（一般教養棟2階）
- 参加者：17名（うち、演者3名、コース学生17名）

#### 【第4回目】

- 日 時：2026年1月23日（金）16：20～17：50（90分）
- 場 所：第1講義室（一般教養棟2階）
- 参加者：15名（うち、演者3名、コース学生14名）



### (4) 学会参加旅費等補助・論文掲載費補助

学会参加旅費等補助：19件（合計419,840円）の補助を実施（国内：18／海外：1）。

論文掲載費補助：2件（合計167,634円）の補助を実施（英文：2）

### (5) 大学院講義聴講

1名の登録研究医コース学生が基礎と臨床の融合セミナーⅠ、Ⅱ、バイオ医療学、ゲノムサイエンス、バイオインフォマティクス、感染症学総論、臨床医学研究総論、医療倫理学法制総論を聴講した。

## 4. 学生の研究実績

### (1) 学会発表

合計 27 件（筆頭演者 19 件／共同発表 8 件） ※うち、国際学会：3 件

氏名	所属講座	学会名	演題	筆頭／共同
竹村 舞織	病理学講座（人体病理学部門）	第114回日本病理学会総会	3D培養システムを用いた神経膠芽腫細胞に対するL-アルギニンの影響	筆頭
高野 柚日	社会医学講座（衛生学部門）	第98回日本産業衛生学会	通所施設送迎車両に車いす利用者に乗せて安定させる介助の作業姿勢評価	共同
桑原 歩夢	社会医学講座（法医学部門）	自動車技術会2025年春季大会学術講演会	車椅子乗員の安全確保に向けた拘束装置の提案	共同
金崎 文香	生化学・分子生物学講座（分子病態生化学部門）	日本生化学会近畿支部例会	糖尿病性腎臓病モデルマウスに対する静電圧処置が酸化ストレスを低減する-Formyl peptide receptor 2によるポドサイトの細胞死の抑制-	筆頭
大西 統也	NCD疫学研究センター予防医学部門	第61回日本循環器予防学会学術集会	Metabolically Healthy Obesityと長期の循環器疾患死亡リスクとの関連：NIPPON DATA90	筆頭
福井 らら	病理学講座（人体病理学部門）	第66回日本神経病理学会総会学術研究会	TxCo-1 antibody recognizing the toxic conformation of aggregation-prone Aβ presents unique immunohistological patterns	筆頭
坂下 千尋	社会医学講座（法医学部門）	第109次日本法医学会学術全国集会	Child death reviewの目的は「予防のため」だけではない-滋賀県の調査結果から-	共同
桑原 歩夢	社会医学講座（法医学部門）	第61回日本交通科学学会学術講演会	車いす利用者における乗車中のサブマリン現象発生機序の解析	筆頭
落合 信介	解剖学講座（神経形態学部門）	第58回日本発生生物学学会合同大会	The CA3 region specifically exhibits neurodegenerative phenotypes in the Sbnol-deficient developing hippocampal formation	筆頭
愛甲 健士郎	社会医学講座（法医学部門）	第47回日本中毒学会学術集会	二酸化炭素中毒事件からみたドライアイス利用の拡大に伴う危険性	筆頭
福士 瑞奈	社会医学講座（衛生学部門）	第66回日本社会医学会総会	婦人科診療における内診台の問題点に関する文献的検討	筆頭
林 千裕	生理学講座（統合臓器生理学部門）	第68回日本神経学会年会	シナプス接着様分子LRFN2が関与するGBM-神経細胞間の相互作用によるGBM悪性化解明 Molecular mechanism of tumor progression through bidirectional interactions between GBMneurons involving LRFN2, synapse adhesion-like molecules	筆頭
林 千裕	生理学講座（統合臓器生理学部門）	第1回日本がん神経科学研究会2025	Molecular mechanism of tumor progression through bidirectional interactions between GBM-neurons involving LRFN2, synapse adhesion-like molecules.	筆頭
坂下 千尋	社会医学講座（法医学部門）	第73回日本職業・災害医学会学術大会	小児外傷死例における予防可能性の検討-滋賀県CDRに基づく分析-	筆頭
金崎 文香	生化学・分子生物学講座（分子病態生化学部門）	第98回日本生化学会大会	Downregulation of Fpr2 by static electric field treatment leads to suppression of diabetic kidney disease	共同
高橋 諒多	病理学講座（疾患制御病理学部門）	第42回滋賀医科大学シンポジウム	CD4 single positive T cellはIL-6とIL-7存在下でCD4CD8 double positive T cellに分化する フレッシュマン優秀賞（学部学生部門）	筆頭
明石 直嗣	NCD疫学研究センター予防医学部門	第42回滋賀医科大学シンポジウム	日本人一般男性における血清イリシン濃度と腹部脂肪組織および筋肉量との関連：滋養動脈硬化疫学研究（SESSA）	筆頭
林 千裕	生理学講座（統合臓器生理学部門）	第42回滋賀医科大学シンポジウム	シナプス接着様分子LRFN2が関与するGBM-神経細胞間の相互作用によるGBM悪性化制御機序の解明	筆頭
吉澤 琢磨	生理学講座（統合臓器生理学部門）	第42回滋賀医科大学シンポジウム	シナプス接着様分子LRFN2が関与するGBM-神経細胞間の相互作用によるGBM悪性化制御機序の解明	共同
桑原 歩夢	社会医学講座（法医学部門）	第9回日本安全運転医療学会学術集会	シートベルト装置付き車いすの有効性について	筆頭
高橋 諒多	病理学講座（疾患制御病理学部門）	第54回日本免疫学会学術集会	CD4+ CD8 alpha+ double positive T cells in the periphery are induced from CD4 single positive T cells by TCR signaling with IL-6 and IL-7.	筆頭
林 千裕	生理学講座（統合臓器生理学部門）	成体脳のニューロン新生懇談会	Molecular mechanism of tumor progression through synapse formation between GBM-neurons involving LRFN2, postsynapse adhesion-like molecules.	筆頭
松原 雄也	実験実習支援センター	第103回日本生理学会大会	ヒトiPS細胞由来分化心筋の活動電位におよぼすPiezoチャネルアクチベーターYoda1の影響	筆頭
切通 舞	実験実習支援センター	第103回日本生理学会大会	ヒトiPS細胞由来分化心筋の活動電位におよぼすPiezoチャネルアクチベーターYoda1の影響	共同
林 千裕	生理学講座（統合臓器生理学部門）	Society for Neuroscience 55th Annual Meeting (SfN2025)	Histone H2B E3 Ubiquitin ligase RNF20 drives glioblastoma stem-like cells maintenance and progression.	共同
額田 康貴	生理学講座（統合臓器生理学部門）	Society for Neuroscience 55th Annual Meeting (SfN2025)	Histone H2B E3 Ubiquitin ligase RNF20 drives glioblastoma stem-like cells maintenance and progression.	共同
明石 直嗣	NCD疫学研究センター予防医学部門	第36回日本疫学会学術総会・国際疫学会西太平洋地域 合同大会	Association of Serum Irisin Levels with Obesity Indices in a General Population of Japanese Men	筆頭

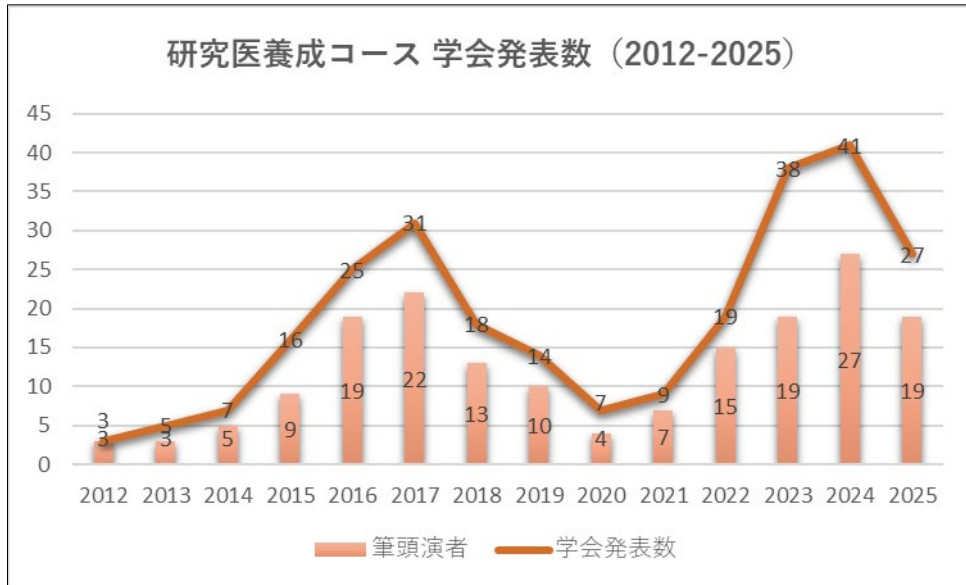
## (2) 論文発表

合計 7 件 (筆頭著者 3 件 / 共同著者 4 件)    うち、英文論文 : 5 件

学術誌掲載論文詳細		所属	使用言語	著者区分	学生学年
著者	Dai Ihara, <b>Ayano Narumoto</b> , <b>Yukie Kande</b> , <b>Tomoki Hayashi</b> , Yasuaki Ikuno, Manabu Shirai, Masaki Wakabayashi, Ryo Nitta, Hayato Naka-Kaneda, Yu Katsuyama	解剖学	英文	筆頭	医5・5・6
タイトル	Strawberry notch 1 safeguards neuronal genome via regulation of Yeats4 expression				
掲載誌	Cell Death Discovery				
著者	一杉正仁, <b>桑原歩夢</b>	法医学	和文	共同	医5
タイトル	福祉車両に乗車する車椅子利用者の安全性 - 安全な拘束装置の提案 -				
掲載誌	自動車技術. 2025; 79(6): 124-130.				
著者	Matsuda S, Ohno M, Nishi K, Ikeda S, Iwasaki H, <b>Eifuku T</b> , Hiraoka Y, Kimura T, Ono K, Nishi E	薬理学	英文	共同	卒
タイトル	Nardilysin in adipocyte regulates insulin sensitivity via HIF1a and PPARg				
掲載誌	Scientific Reports, in press				
著者	<b>Araki R</b> , Hitosugi M, Takahashi K	法医学	英文	筆頭	医6
タイトル	Motor vehicle driving during pregnancy does not influence uterine contractions				
掲載誌	Obstet Gynecol Int. 2025 Dec 8;2025:3096143. doi: 10.1155/ogi/3096143. eCollection 2025.				
著者	<b>桑原歩夢</b> , 一杉正仁, 北原照代, 辻村裕次, 埜田和史	法医学	和文	筆頭	医5
タイトル	車いす乗員が利用する福祉車両における事故およびヒヤリハット発生状況とシートベルト着用実態について				
掲載誌	日交通科会誌. 2025; 25(1): 52-61.				
著者	Fuchigami T, Hayashi Y, Kuroda A, Zaki ZMM, Mohd Ariffin NAF, Daun KA, Morimura N, <b>Kitagawa H</b> , Azami T, Tatsumoto S, Go Y, Uchida K, Takahashi S, Nakabayashi K, Ema M, Hitoshi S	生理学	英文	共同	卒
タイトル	Klf5 regulates the transition from apical radial glia to intermediate progenitor cells in the developing mammalian brain				
掲載誌	the Journal of Neuroscience				
著者	Fumiya Sawasaki, Akira Sato, Akio Shimizu, Shoma Matsumoto, Ikuo Kawamoto, Mitsuru Murase, Iori Itagaki, Hideaki Tsuchiya, Hirohito Ishigaki, <b>Naoko Ueda</b> , <b>Issa Toyoda</b> , Yasushi Itoh, Daisuke Okuzaki, Masatsugu Ema, Hisakazu Ogita	生化学	英文	共同	医3
タイトル	Suppression of the neutrophil-derived S100A8/A9 complex ameliorates doxorubicin-induced cardiomyopathy in non-human primates				
掲載誌	Biochem Pharmacol. 2026; 243: 117484				

### (3) 経年データ

#### ○学会発表数



#### ○論文発表数



#### (4) 研究医養成コース修了者

4名の学生について研究医養成コースの修了を認定した。



##### 【修了学生の所属】

- ・ NCD疫学研究センター予防医学部門 2名
- ・ 病理学講座（人体病理学部門） 1名
- ・ 社会医学講座（衛生学） 1名

#### (5) 大学院コースへの接続

2025年度に当コース参加学生の大学院入学者はなかった。

## 5. コース運営状況

### (1) 研究医養成検討専門委員会

研究医養成コースの年間支援計画等の検討のほか、研究医養成コース修了認定の審査も併せて担当した。さらに、将来の本学とジャクソン研究所の国際提携を見据えて企画された学部学生の研究留学の実施に関して、その派遣体制等の調整役や学生選考審査委員会の役割を担った。

また、若鮎祭においては、大学構成員や地域住民に対する広報のため、当コース概要に関するポスター出展を実施した。

### (2) 特任助教の配置

医学・看護学教育センター所属の特任助教を1名継続採用した。

特任助教は、主に「研究医養成コースセミナー」、「技術セミナー」、「輪読会」の企画実施を担当し、初めて研究活動を行う学生の技術的フォローや科学的探究心の涵養を目的として業務を行った。

### (3) 予算執行状況

当初配分額	¥6,000,000-
支出合計額	¥5,280,070-
人件費	¥4,488,876-
学会参加旅費補助	¥419,840-
論文掲載費補助	¥167,634-
その他消耗品等	¥203,720-